

大阪府中央卸売市場 新経営展望（H29～33年度）の策定について

背景・趣旨

< 国（農林水産省）>

- 第10次卸売市場整備基本方針を策定（H28年1月）
 - └経営戦略の確立、産地との連携強化、ニーズへの適格な対応、品質管理の高度化、など

< 府市場 >

- 現行の経営展望の計画期間が終了（H24年度～28年度）
- 指定管理者制度をH24年度から導入し、29年度以降も継続

以上の状況を踏まえ、開設者、指定管理者、場内業者等による中長期的な行動計画を含めた経営展望の策定が必要

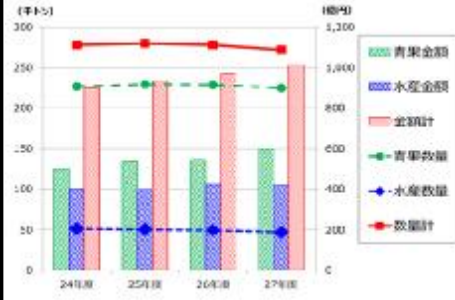
計画期間：H29年度からH33年度までの5年間

府市場の状況

< 取扱数量・金額の状況 >

- 数量は横ばい、金額は近年やや増加傾向

数量（左軸）・金額（右軸）[H24-27年度]



< 府市場を取り巻く状況（＝外部環境）>

- 人口減少、食料消費量の低下
- 専門小売店の減小、大型量販店の増加
- 農・水産物の生産量の減少、産地の大型化
- 市場経由率の低下

< 府市場の強みと弱み（＝内部環境）>

- 強み
 - ・高速道路の結節点に近く、物流に便利
 - ・全国10位の取扱金額を誇る集荷・出荷力
 - ・中央市場で唯一、指定管理者制度を導入
- 弱み
 - ・施設の老朽化
 - ・低温施設の不足
 - ・産地等からの認知度が低い

府市場の強みを生かし 課題を解決するための方向性

- 立地条件を生かした集荷力の強化
- 施設・設備の更新
- 効率的・効果的な市場運営
- 市場関係者の連携による販売力の強化
- 消費者等への販路開拓・維持
- 市場PR能力の向上
- 場内ルールの強化
- 災害対応能力の向上

府市場の方向性

基本戦略

① 流通の変化に対応した「機動性」のある市場
広域的な集荷・転送・分荷機能の強化

② ニーズに対応した「付加価値」を重視する市場
コールドチェーン化の推進、加工機能等の充実

③ 「民間活力」をフルに活用する開かれた市場
指定管理者による効率的な運営、外部活力の導入

④ 場内外の連携強化で「活性化事業」に取り組む市場
産地や量販店、大学等との共同事業の展開

⑤ 場内業者の「自律的取組」を重視する市場
場内一丸での場内ルール順守の徹底

行動計画（具体的取組）

- ・荷捌きスペースの拡充、荷下ろし時間の短縮
- ・輸出の取組みに向けた環境整備

- ・冷蔵機能の強化（冷蔵庫棟、卸・仲卸業者の自主冷蔵庫増設）
- ・遮熱対策（クーラー排熱対策、断熱塗装の導入） など

- ・近郊売場の充実（大阪産（もん））
- ・買出入の増加に向けた取組の実施 など

- ・場内業者・指定管理者・開設者によるトップセールス
- ・見学者対応、大学等との協働イベント等によるPR戦略の強化 など

- ・直接集荷、第三者販売申告の適正化
- ・災害等に強い市場づくり（BCPの随時見直し、防災訓練の実施）など

目指すべき将来像

“競争力のある市場”の
実現へ

～場内一丸となって
流通構造の変化に対応し、
産地や小売、消費者の
支持を勝ち取る～

取扱高の見通しと目標

【最終年度（H33年度）の取扱高の目標】

【青果】

◎数量目標：221千トン
（H28年度推計値の100%）

◆金額目標：677億円
（H28年度推計値の110%）

【水産】

◎数量目標：45千トン
（H28年度推計値の100%）

◆金額目標：405億円
（H28年度推計値の100%）

※H28推計値：28年度第3四半期まで（28年4月～12月）実績＋前年度第4四半期（28年1月～3月）実績

施設整備計画・収支計画

< 施設整備計画の考え方 >

- 平成28年度に実施した市場内施設の劣化度調査結果を踏まえ、市場施設の長寿命化、市場機能の維持及び市場の活性化のために必要な改修に係る施設整備計画を策定する。
- 主な施設整備項目
 - ・高圧受変電設備改修工事
 - ・昇降機設備改修工事
 - ・低圧共用幹線設備改修工事
 - ・直流電源設備改修工事
 - ・冷却水設備改修工事
 - ・冷凍・冷蔵設備改修工事 他

< 収支計画の考え方 >

- 施設整備計画を基に開設者と指定管理者会計の合算した収支計画を策定する。

進捗管理と評価

- 毎年度、学識経験者、市場関係者等で構成する「中央卸売市場活性化協議会」において、進捗管理と評価を行い、結果を府市場のホームページで公表